

# 月報 白樺

ALPINE CLUB / WHITEBIRCH NAGANO

## 9月の活動予定

9月1日(火) 第一例会

9月6日(日) 御嶽山  
CL...

## 10月の活動予定

10月6日(日) 第一例会

コロナ禍のおり、例会の在り方も見直し、  
当面の間、月に一度、第一火曜日のみ開く  
事にしました。

山行計画は、第一例会終了後に、LINE に流  
しますので、ご確認ください。

## 8月の活動報告

8月2日(日) 志賀高原

天候:晴れ

参加者:

コロナ禍と天候不順の影響で4カ月振りの会山行。近くて  
遠い存在の様な志賀高原を散策した。硯川の駐車場には  
県外車が多く、長かった梅雨開けを待ちわびた人達が繰り  
出して来たのでしょうか！

前山スキー場から見る笠ヶ岳は大きく美しい。渋池は黒々と  
静かにあった。志賀山への登りは、山を思い出させてくれ  
た。奥志賀山から見下ろす大沼池は神秘的な色合い。四  
十八池へ下り、硯川へ。

その後、焼額山へ登るため移動し、登山口へ。しばらくは樹  
林帯を登る。草も刈られ歩き易い。ゲレンデに出てからは暑  
い... ヤナギラン、アザミが咲き、山はもう初秋の気配がし  
た。山頂の稚児池には終わりかけのワタスゲ、キンコウカ、  
イワショウブの花が見られた。青空と白い雲を映す池は先  
客2人が下山した後は3人だけ、“秋あかね”の飛ぶ中ゆ  
っくりと過ごした。

帰路は、ゲレンデに残る車輪の跡をたどって下山した。身  
近過ぎて訪ねる事も少ない志賀高原の良さを改めて思った  
一日だった。次回は雪の四季に。



長野(梅木屋) 6:30 — 硯川登山口 7:40/7:55 — 分  
岐 9:00 — 志賀山 9:30 — 奥志賀山 10:00 — 四  
十八池 10:45 — 硯川 12:00 焼額山登山口 13:05 —  
焼額山 14:15/14:45 — 登山口 15:45

8月10日(祝) 平標

参加者:

駐車場は既に満車。どうしようかと思ったら、係に奥へ案内  
される。以前より、広くなっていたので、停める事ができた。  
どこがコロナ禍？自粛？関東方面からの車も多い。

ここは、トイレもあるし、自販機もあるから、安心な登山口だ。道を少し歩いて登山口へ。薄暗い日陰斜面の急登が始まる。濡れていて、足元が滑る。次々と若者が、追い付いては抜いて行く。羨ましい体力だ。今日は、若い人が多い。鉄塔のある4合目まで来ると、笹原なので展望開けて風通しも良い。汗でびしょ濡れなので、ヒンヤリしてくる。ここまで長い感じがした。見晴らしが良い。コースには、何合目と標があるのので、現在地確認ができる。松手山手前からは展望広がり、足元にはウツボグサがきれい。シャジンも咲いている。石南花の木もあるので、時期には咲くのだろう。まだまだ先の平標山山頂、帰りの尾根、苗場山、県境の山々が良く見える。山頂までの斜面が、ピンク色になっている。シモツケソウではないかと話す。期待が膨らむ！



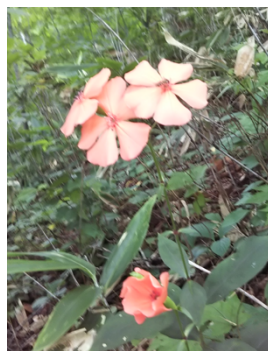
笹一面の斜面の中、登山道の両側だけがお花畑という、素晴らしい急斜面だった。ザックを転落させないように、写真を撮る。ヒメシャジン、ウツボグサ、ソバナ、シモツケソウ、ノンギク、ホツツジ。

山頂も混んでいる。仙ノ倉山、万太郎山が見え 360 度の展望。谷川岳は雲の中。いつか、谷川岳からこちらに縦走してみたい。今日は、仙ノ倉まで行かず、ゆっくり眺めて休憩。素晴らしい景色。会で万太郎まで行き、吾策新道を下

ったことが思い出される。

平標山の家まで階段を降り、冷たい水で喉を潤す。美味しかった！ツアーで来ているようなチームもいた。

飽きるような、階段を下り、やっと林道に出



た。  
疲れたけれど、やっぱり山は良い！

5:00 長野	7:15/7:40 登山口	9:00 鉄塔	9:42 松手山
11:25/12:0	平標山山頂	12:30/12:45 山の家	14:30 駐車場

8月16日(日) 横岳(杣添尾根から)

参加者:

天気:晴れ



杣添尾根は横岳へは最短距離だが単調な登山道だと聞いていた。ナビを「八ヶ岳高原ロッジ」にセットし出発。海ノ口の別荘地を通過して登山口Pに到着すると、既に駐車スペースはいっぱいで路駐が3台。簡易トイレのある東屋から登山道らしくなり、樹林帯の中を淡々と登る。日差しは遮られているが風がほとんどなく暑い。中間地点が近づいてくると、やっと空気がひんやりしてきた。木々の間から赤岳の一部や富士山も見えるようになると少しテンションが上がる。シャクナゲやハイマツを切り開いた尾根筋の道は根や枝が飛び出していてとても歩きにくい。「もう少し短く切ってくればなあ・・・」とブツクサ言っただけの、これだけ切るのとは大変だっただろう。ここは新しくつけられた道のようなが(冬道?)ももとの登山道も通れないようにはなっていなかったのかもしれない。

木製の2m正方ほどの見晴台で休憩。これから登る三又峰までの尾根や(ここを登るのかあ!)赤岳、横岳の稜線がよく見える。あともうちょっとだ。斜度を増した岩混じりの道を一步一步登っていきと着いたあ!三又峰!赤岳、阿弥陀岳が目の前に!素晴らしい景色だ。ここから横岳までは10分ほど。横岳でも眺望を堪能する。チシマギキョウやコゴメグサ、咲き終わったウルップソウ、チョウノスケソウ。6月から7月にかけてはもっとたくさんの花が待っているのだろう。

ガスもだんだん上がってきた。ガスに乗ってトンボもたくさん飛んでいる。さあ、下山することにしよう。根や枝の張りだした所は登りより若干歩きやすく感じる。長い長い樹林帯は本当に長い。だんだん嫌になってくるがいつまでたっても着かない。やっと橋が見えたときにはホットする気持ちと、もう

歩かなくていいんだあ・・という開放感でいっぱい。  
樹林帯にもう少し変化があるか、ここまで歩いたという目安  
の表示がもっとあれば良いのに。なんといっても眺望は申し  
分ない。



長野 5:00 - 海ノ口自然園 P7:00/7:10 - 東屋 7:40 - 2,500  
m地点 9:40 - 展望地 10:05 - 三又峰 11:08/11:45 - 横岳  
11:55/12:15 - 三又峰 12:25/12:30 - 展望地 13:05 - 中間地点  
13:50 - 東屋 14:45 - 海ノ口 P15:20